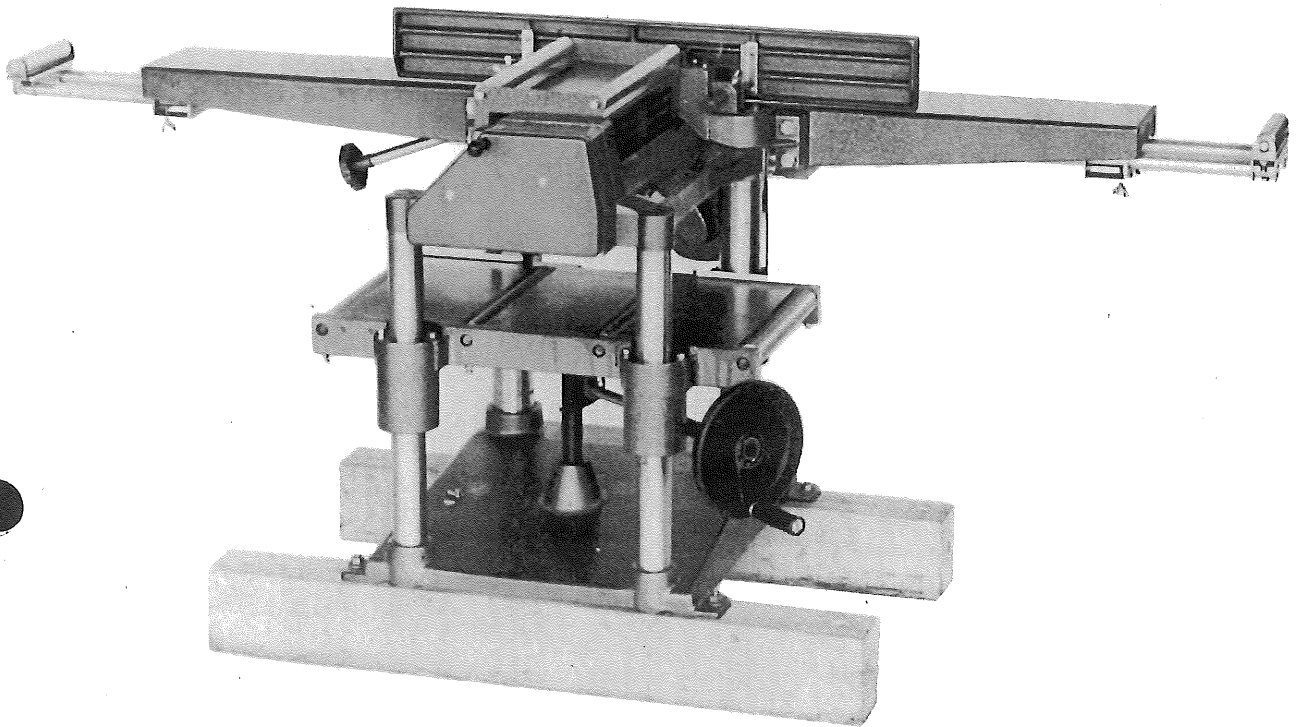


# 自動カンナ

取扱説明書

AH-100・101



ご使用前に本取扱説明書をよくご覧の上ご使用くださるようお願いいたします。

55 3/31

この度は当社製品をお買い上げ下さいまして誠にありがとうございます。本機はきっと貴方のお仕事のお役に立つものと確信致しております。ご使用前に必ず本取扱説明書をよくご覧の上、適切な取扱をして能率を上げ末永くご愛用下さいますようお願いいたします。

## ご使用に当りましての注意事項

本機を使用する前には必ず取扱説明書を十分読み、指定された以外の用途には、お使いにならないで下さい。

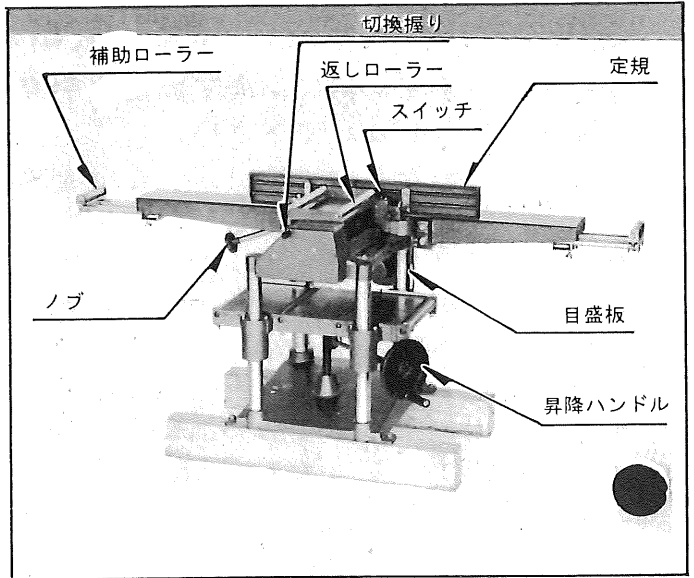
- 被削材に釘などの異物がないことを確認して下さい。異物があればカンナ刃を破損し、仕上面は、きたなくなります。
- さし込みプラグを電源にさし込む前にカンナ刃は使用説明に従い、正しく取り付けられ、締付ボルトはしっかりと締付けられているか確認して下さい。
- カンナ刃の取付け取外しなどカンナ刃の取扱い時には手を切る恐れがありますので刃先に十分注意して下さい。
- 切屑排出口には絶対指などを入れないよう注意して下さい。カンナ刃が高速回転していますので危険です。
- 電圧は銘板の表示と一致しているか必ず確認して下さい。100V用のモーターを200Vで使用されますとモーターを焼損するのみでなく、高速回転となり危険です。逆に低い電圧で使用しますと力不足となります。
- 製品は大事に取扱って下さい。誤って落したり、ぶついたりした場合は異状の有無を確認した後、ご使用下さい。
- 運転中はカンナ刃、及び可動部には絶対に手を触れないで下さい。大変危険です。
- 能力を超えた作業は事故のもとです。カンナ刃は常に良い切れ味にしておき、回転数を上げた後、後工を始めて下さい。
- 湿った場所、ぬれた場所での使用は避けて下さい。感電事故のもとになり、モーター絶縁を低下させます。
- 安全な作業をする為には作業場はいつもきれいに整理をし、十分な照明が必要です。ちらかした作業場は事故のもとです。
- 作業場所には作業関係者以外は近づけないで下さい。特にお子様は危険です。
- 作業時の服装は身軽なもので行って下さい。
- 調整用スパナ、レンチ、ドライバー類は、使用後はすぐに外すようにして下さい。スイッチを入れる前には調整用スパナ、レンチ、ドライバー類が外してあるかをよく確認して下さい。
- さし込みプラグを電源にさし込む前にスイッチが切れていることを確認し、使用后、及び停電の際には、さし込みプラグを抜くように心掛けて下さい。
- 整備点検、部品交換の際は必ずスイッチが切れていることを確認し、さし込みプラグを電源より外して下さい。
- 運転中、機械の調子が悪かったり、異状に気付いた時には、直ちに使用を中止して下さい。
- 安全で能率よく作業をしていただく為には作業前の機械の点検と定期点検が必要です。点検はお買い求めの販売店、全国各地のリョービ電動工具販売店、リョービ東和各営業所にお問い合わせ下さい。

## ● 用 途

- 木材の平削り、相ジャクリ

## ●特 長

- 318mmのワイドな切削巾。
- 送り速度は2段切換方式により加工材に合った最適な送り速度で切削出来ます。
- 4本支柱の採用により、加工精度は抜群です。
- 簡単、正確に刃先調整の出来る当社独自の調整方式。

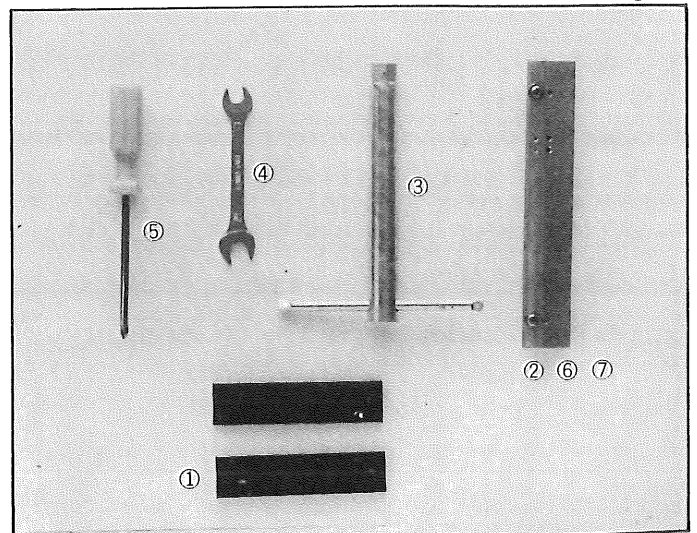


## ●仕 様

電 源	単相 100V・50~60Hz		
電 流	15A		
消 費 電 力	1,450W		
回 転 数	自動カンナ	7,000R・P・M	
	手押カンナ	7,000R・P・M	
最大切削巾	自動カンナ	318mm	
	手押カンナ	160mm	
送 材 速 度 (自動カンナ)	6 m/min, 9 m/min (2速切換方式)		
最大切込深さ	自動カンナ	送材速度6m/min	3mm (250mm切削巾時) 2mm (318mm切削巾時)
		送材速度9m/min	3mm (180mm切削巾時) 2mm (250mm切削巾時) 1mm (318mm切削巾時)
	手押カンナ		4.5mm
切 削 材 厚 さ (自動カンナ)	3~185mm (AH-100) 3~260mm (AH-101)		
相ジャクリ深さ (手押カンナ)	16mm		
定 盤 寸 法	自動カンナ	320×600mm (巾×長)	
	手押カンナ	160×1450mm (巾×長)	
機 体 寸 法	820×1530×755 (AH-100) 920 (AH-101) mm (巾×長×高)		
重 量	140kg (AH-100) 145kg (AH-101)		
キャブタイヤコード	6 m		

## ●通常附属品

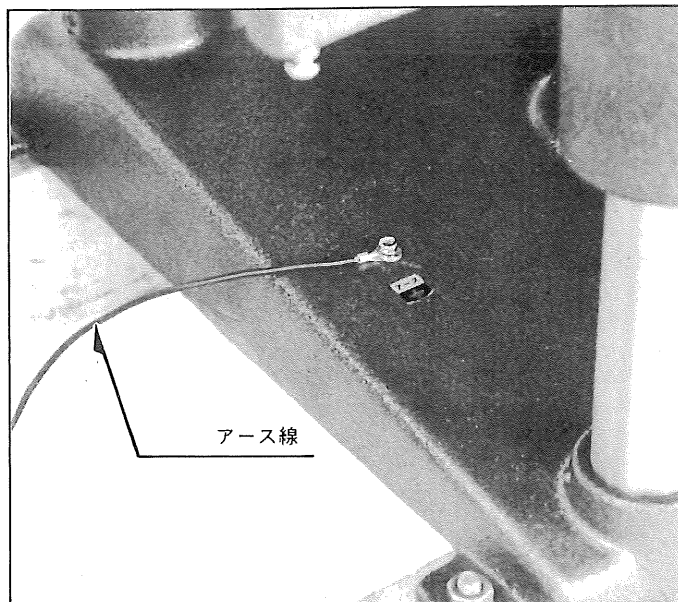
- ① 刃先調節ゲージ ..... 2
- ② カッター手研ぎ保持器 ..... 1
- ③ ボックススパナ13mm ..... 1
- ④ 両口スパナ10×13mm ..... 1
- ⑤ ドライバー (+) ..... 1
- ⑥ ナベ小ネジM5×12 ..... 4
- ⑦ 平座金M5 ..... 4



## ● ご使用前の注意

まず差し込みプラグを電源につなぐ前に次の事項に注意して下さい。

- 必ず銘板に記載されている電圧でご使用下さい。
- 差し込みプラグを差し込む前にはスイッチが切れている状態か確認して下さい。
- カッターの締付けが不完全な状態で運転しますと危険ですので、念の為に点検して下さい。
- 感電事故を防止するため必ずアース線を出して接地して下さい。



- カッターは常に手入れして、いつも良い切れ味でご使用下さい。切れ味が悪いと、加工面が悪くなるばかりでなく能率も上がりません。

- ご使用後や停電時、カッターの取替え、掃除、点検などの場合は必ず差し込みプラグを電源から抜いて下さい。

## ■ 自動カンナ

### ● 仕上げ寸法および切込深さ調節

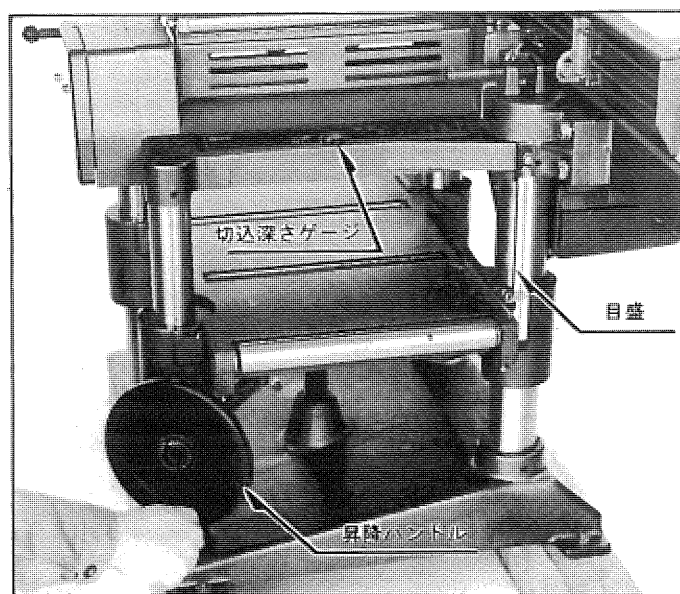
最大切込深さ	送材速度6 m / min	3mm (250mm切削巾時) 2mm (318mm切削巾時)
	送材速度9 m / min	3mm (180mm切削巾時) 2mm (250mm切削巾時) 1mm (318mm切削巾時)

加工仕上げ寸法の調節は昇降ハンドルを回して目盛板上の目盛に仕上げ寸法を合せます。

昇降ハンドル1回転で3.5mm昇降します。切込深さは最大切込深さを上記表に示しておりますので切削巾および送材速度により決めて下さい。

※送材すると材料の上面が切込深さゲージに当たり、切込深さ分だけ切込深さゲージが上昇します。

昇降ハンドルでお望みの切込深さに調整して下さい。

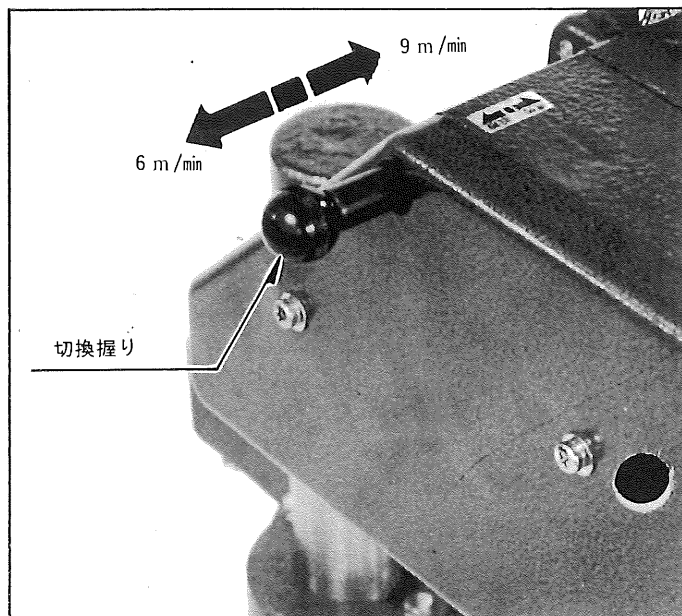


## ●送材速度

本機は送材速度が6m/min, 9m/minの2速切替方式ですので切削材の硬、軟や加工仕上げ状態、切削巾や切込深さに応じて適宜切替えてご利用下さい。

送材速度の切替はスイッチを入れて回転させながら、送材する前に行います。切替握りを手前に引くと6m/min、押しと9m/minです。

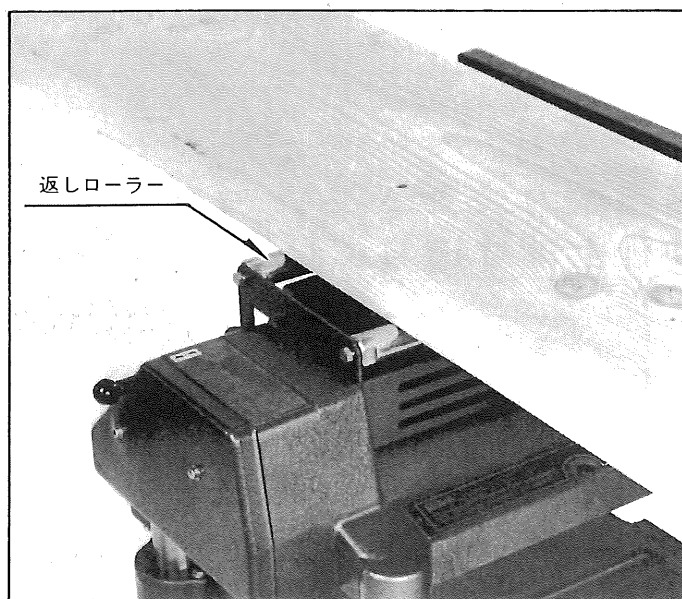
※切替は完全にそれぞれの切替位置にセットして下さい。



## ●送材および返送

切削材は定盤面に沿わせて挿入し、浮かないようにして下さい。切込量が多すぎて送材不能になったとき、そのまま放置しますと送りローラーが摩耗してしまいますので速やかに昇降ハンドルで切込量を減らして下さい。

反復切削する場合は返しローラーで切削材を送り返しますと楽に作業ができます。



## ●カッターの取替え

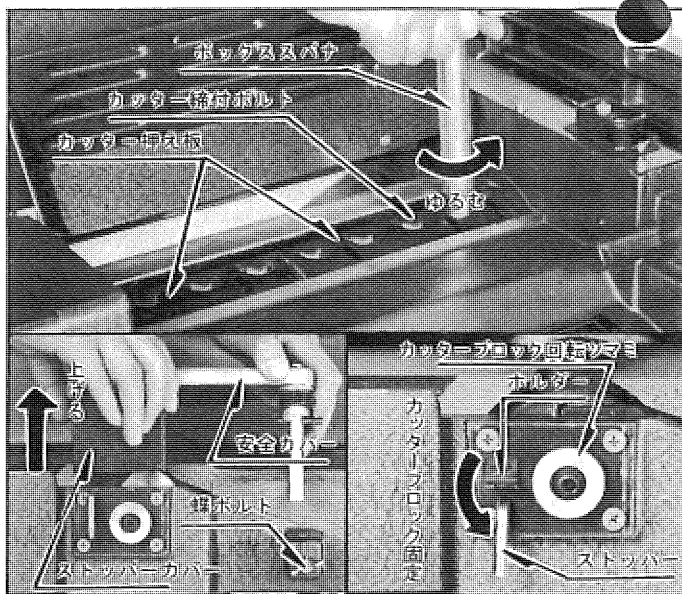
※ストッパーカバーは皿ネジのテーパ部分がカバーの案内になっておりますので真っすぐ上に引張って取外して下さい。

### ●カッターの取外し

①屑ハケカバーを倒し、カッターブロック回転ツマミを回転させ、カッター締付ボルトが上向になった位置でストッパーをホルダーから外し、カッターブロックを固定します。

②附属のボックススパナでカッター締付ボルト8本をゆるめ、カッター押え板とカッターを取外します。

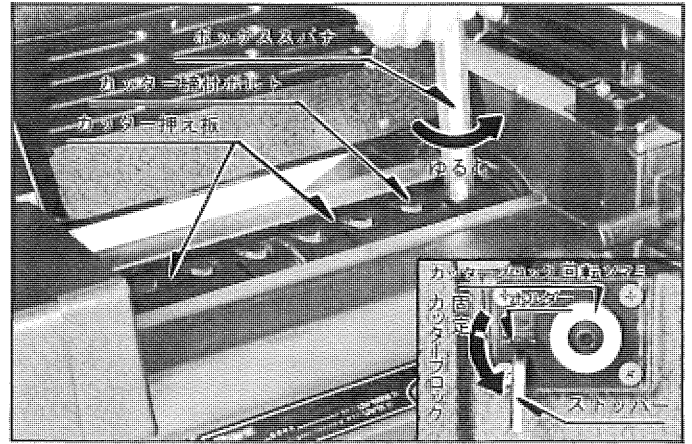
●取付けは取外しの逆の要領で行って下さい。



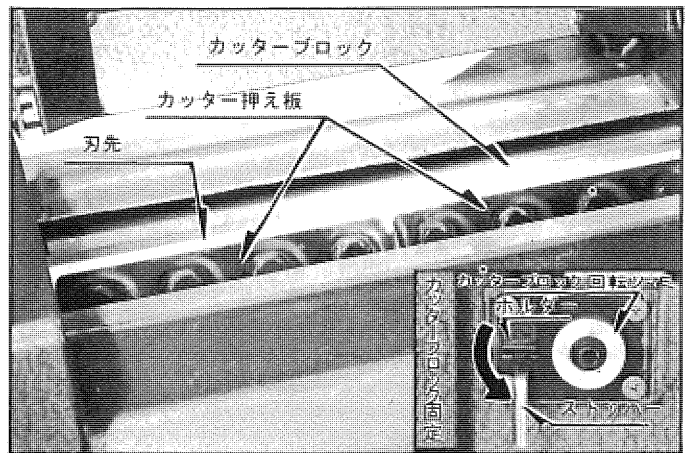


## ●カッターの刃先調整

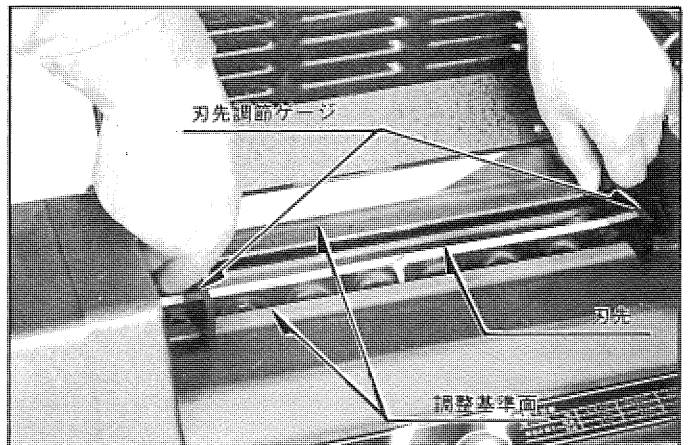
- ①屑ハケカバーを倒し、カッターブロック回転ツマミを回転させ、カッター締付ボルトが上向になった位置でストッパーをホルダーから外し、カッターブロックを固定します。
- ②カッター締付ボルト8本を付属のボックスパナでゆるめ、カッターが軽くスライドする程度に調整して下さい。



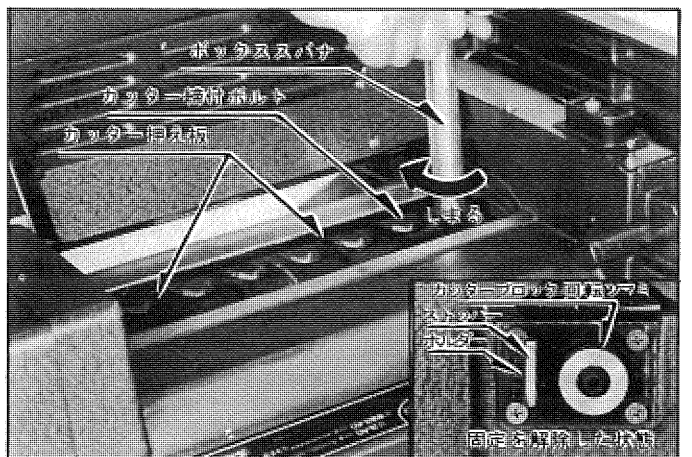
- ③カッターブロック回転ツマミを回転させ、刃先の最も高い位置でストッパーによりカッターブロックを固定します。この時、刃先が調整基準面から少し出るようにセットして下さい。



- ④ローラーケース両端の調整基準面に刃先調節ゲージ2ヶを同時に当て、刃先を調整基準面と同じ高さにします。  
(刃先が調整基準面に近い程美しい切削面が得られます。)



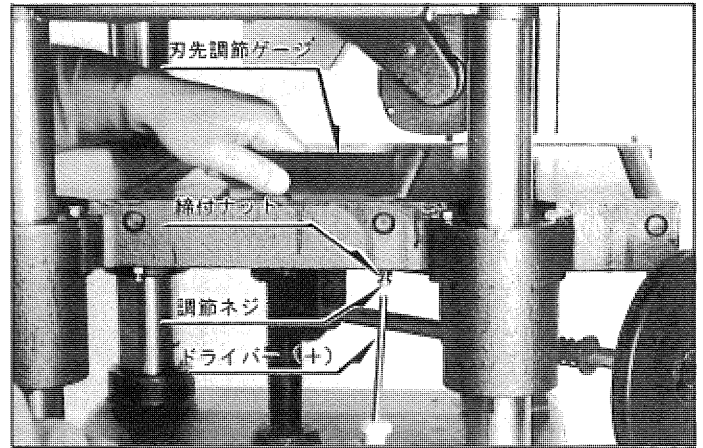
- ⑤カッター締付ボルトを付属のボックスパナで端から左右交互に強く締付けて下さい。
- ※調整後は必ずストッパーをホルダーにセットし、カッターブロックの固定を解除して下さい。



## ●定盤ローラーの調節

締付ナットをわずかにゆるめ、調節ネジを回してローラーを定盤面より0.1~0.2mm (ハガキ1枚の厚み) 高くして下さい。調節後は締付ナットをしっかりと締付けて下さい。

4個のローラー高さが不揃いだと切削材の厚さが不同になったり、ローラーが高く出すぎますと切削面に段がついたりしますのでご注意ください。

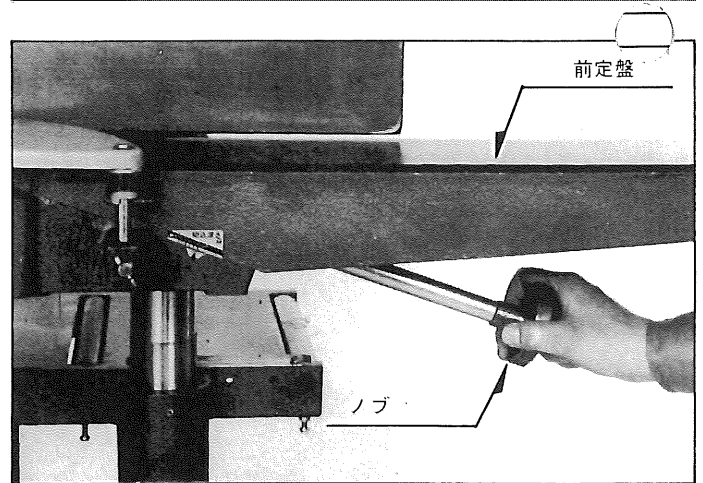


## ■手押カンナ

### ●切込深さ調節

前定盤下側のノブにて調節します。

ノブを回すことにより切込深さは0~4.5mmまで自由に調節できます。

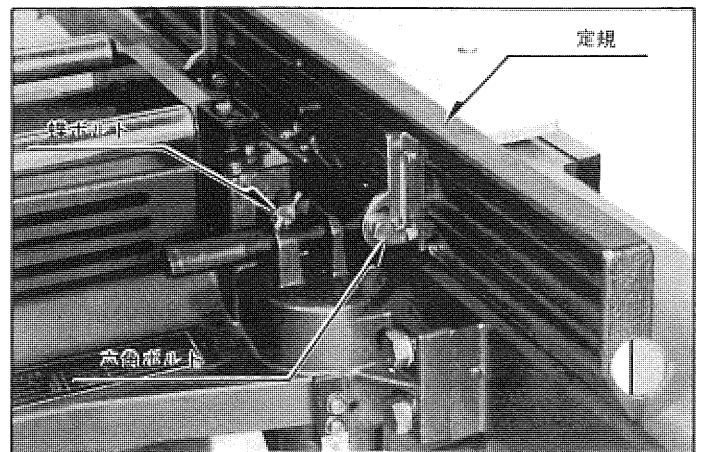


### ●定規の調節

定規は定盤に対して直角にセットして出荷しておりますが、作業前には万一のため角度をお確かめ下さい。

定規の傾斜調節は2ヶ所の六角ボルトをゆるめて、お望みの角度に定規を調節後、六角ボルトを締め付けます。

定規の位置調節は2ヶ所の蝶ボルトをゆるめて、お望みの位置に定規を調節後、蝶ボルトを締め付けます。



### ●カッターの取替え

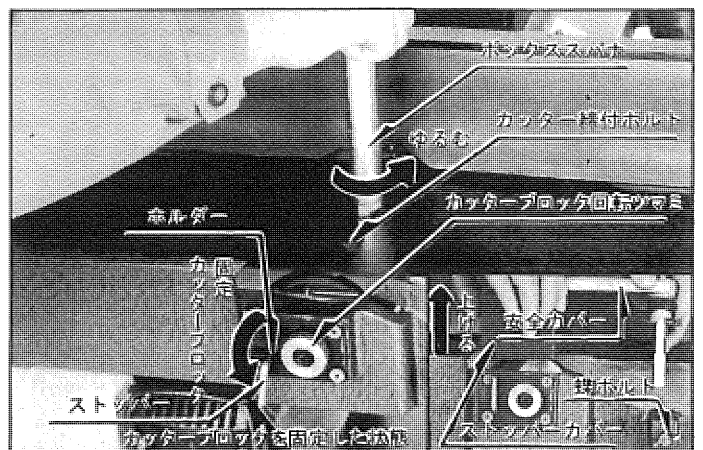
※安全カバーは、手押定盤下の蝶ボルトをゆるめて取外します。

※ストッパーカバーは皿ネジのテーパ部分がカバーの案内になっておりますので真っすぐ上に引張って取外して下さい。

#### ●カッターの取外し

カッター締付ボルトを上向きにし、ストッパーをホルダーから外してカッターブロックを固定した後、附属のボックススパナでカッター締付ボルト4本をゆるめ、カッター押え板とカッターを取外します。

●取付けは取外しの逆の要領で行って下さい。



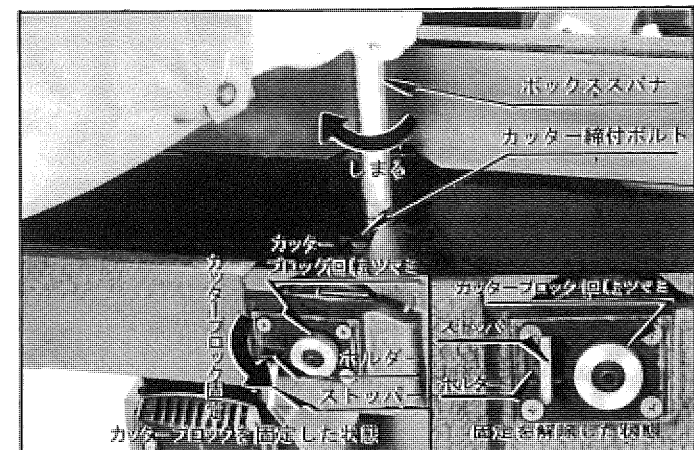
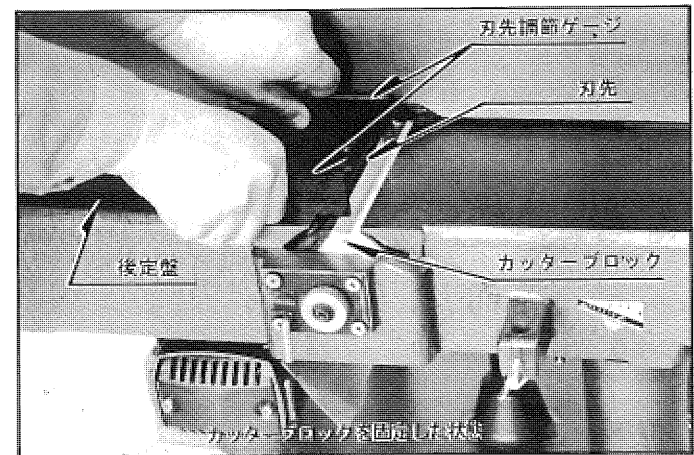
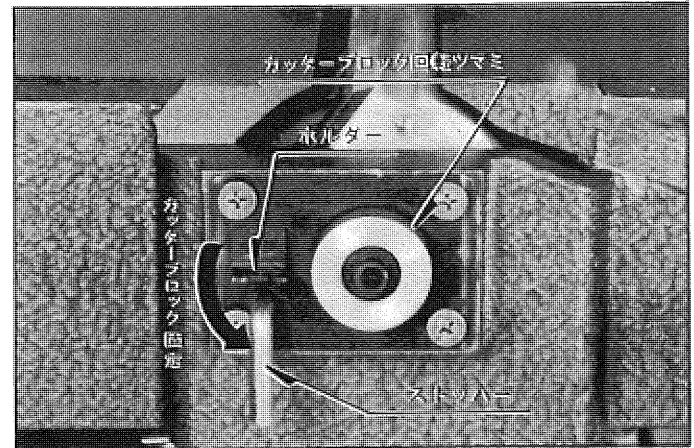
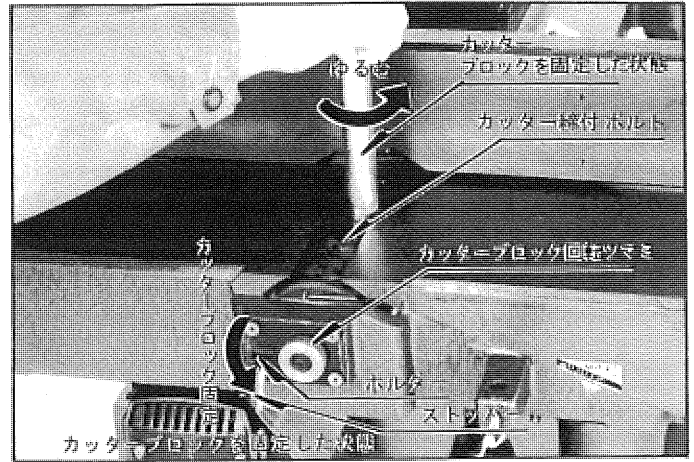


## ●カッターの刃先調整

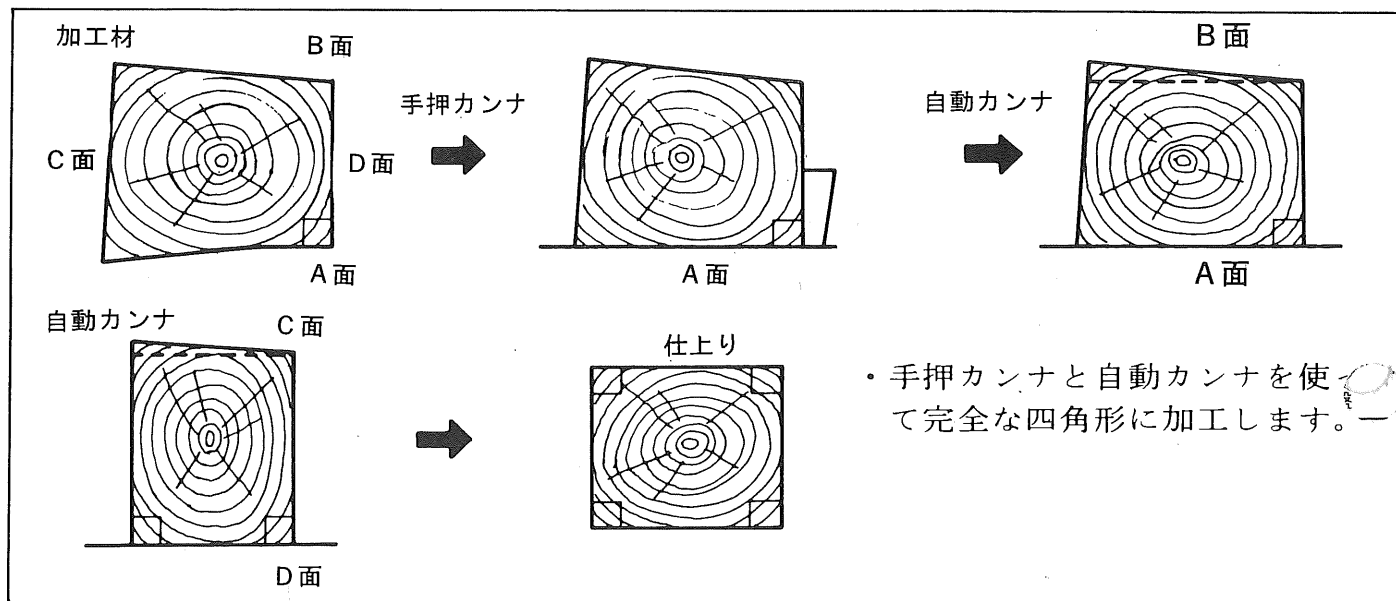
- ①蝶ボルトをゆるめて安全カバーを取外して下さい。
- ②カッターブロック回転つまみを回転させ、カッター締付ボルトが上向になった位置でストッパーをホルダーから外し、カッターブロックを固定します。
- ③カッター締付ボルト4本を付属のボックススパナでゆるめ、カッターが軽くスライドする程度に調整して下さい。
- ④カッターブロック回転つまみを回転させ刃先の最も高い位置でストッパーによりカッターブロックを固定します。この時、刃先が後定盤面から少し出るようにセットして下さい。
- ⑤後定盤面に刃先調節ゲージ2ヶを同時に押し当てて密着させ、カッターの両端を押さえて下さい。  
(刃先が後定盤面に近い程美しい)  
切削面が得られます。

- ⑥カッター締付ボルトを付属のボックススパナで端から左右交互に強く締付けて下さい。

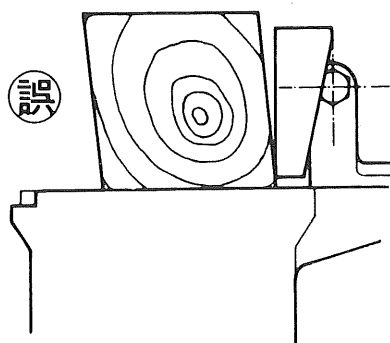
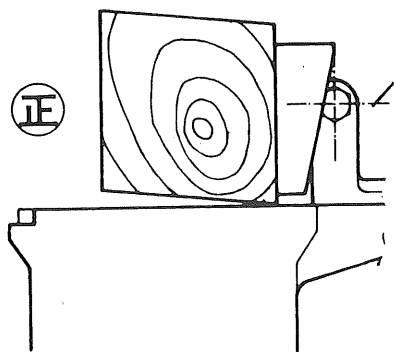
※調整後は必ずストッパーをホルダーにセットし、カッターブロックの固定を解除して下さい。



■ 直角出し・分決め (直角削り・反った材木を手押カンナで切削し自動カンナで仕上げます。)

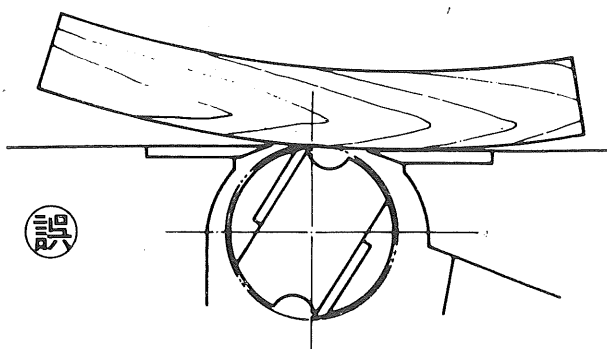
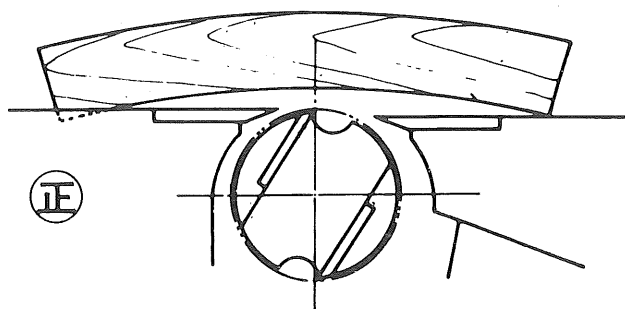


● 正しい削り方と悪い削り方

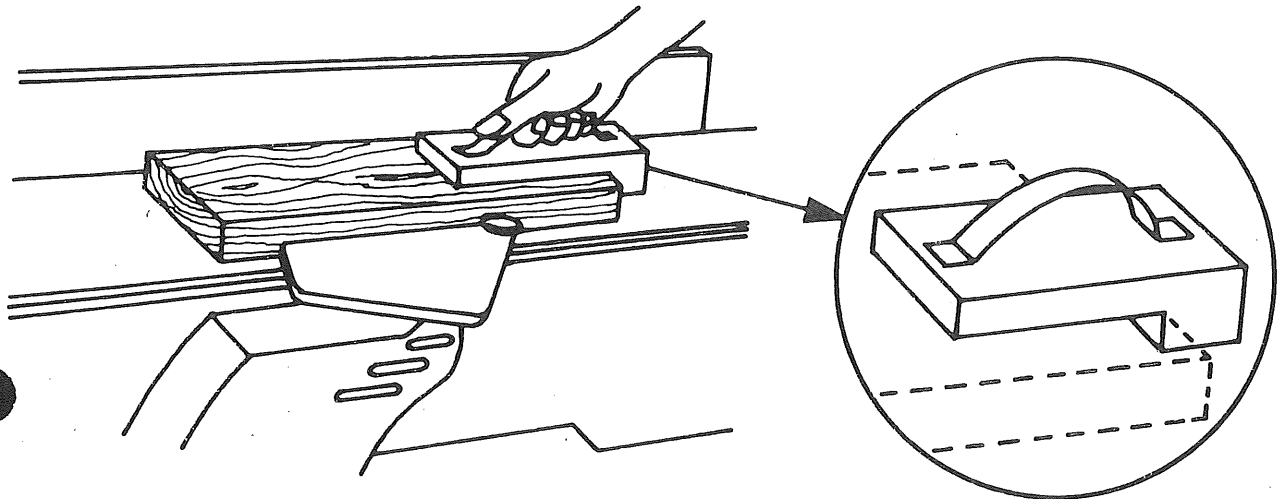


● 弓形に反った材料

凸部を上にして削る



- 薄い材料削りは板押し治具を作成して行うと安全に作業出来ます

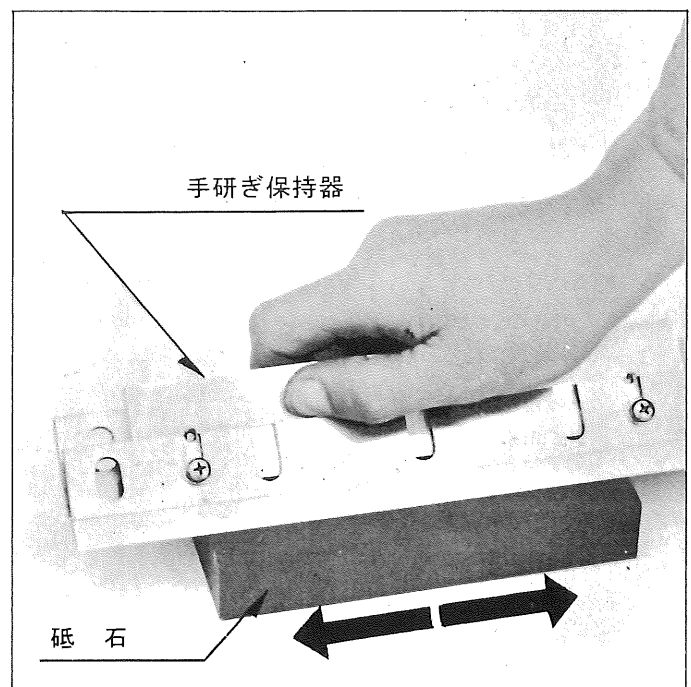
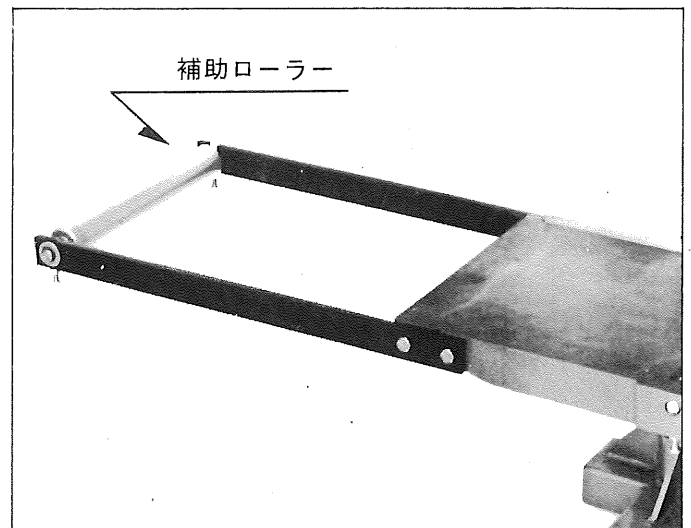


## ● 特別附属品

- 補助ローラーセット  
(補助ローラーを取付けますとより正確にまた楽に作業出来ます。)
- 砥石  
(手研ぎ保持器でのカッターの研磨にご利用下さい。)

## ● 保守と点検

- カッター  
切れ味が悪くなったカッターをそのままご使用になりますとモーター、その他に無理がかかり能率も落ちますので早めに研磨するか、新品と交換して下さい。  
● 手研ぎ保持器での研磨はカッターをしっかりと取付けて固定し、2枚のカッター刃先が同時に砥石に当るようにして行います。  
カッターを交換する場合は2枚1組単位で交換して下さい。  
何度も研磨したカッターと新品のカッターを1組にして使用しますとバランスが悪くなり、振動が出たり機械の寿命を低下させます。



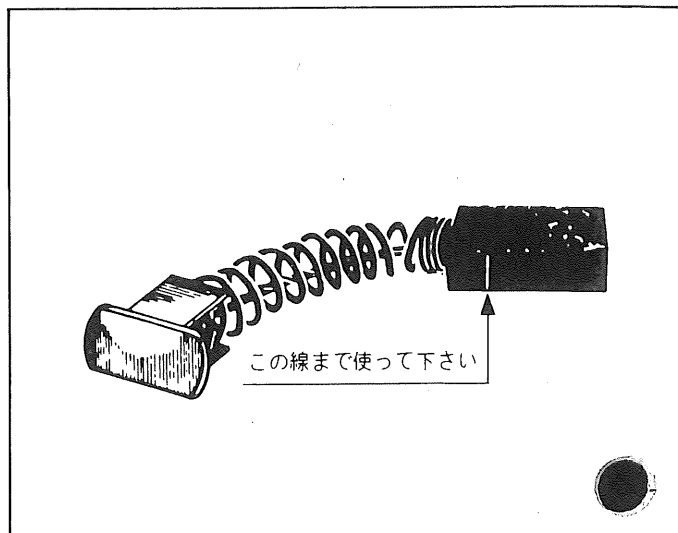
●清掃と注油

送りローラー部、定盤ローラー部、屑ハケカバー部、その他ネジ部等には、切屑、ゴミ等の付着がないよう常に清掃して下さい。また、チェーン(チェーンカバーを外す)、上下スライドバー、昇降ギヤー、ネジ部の摺動部等にはときどき注油して下さい。

※モーター内部には、水、油が入らないよう注意して下さい。

●カーボンブラシ

カーボンブラシは全長の1/3までご使用出来ますが、時々カーボンブラシを外して点検し、新しいカーボンブラシと交換して下さい。短いカーボンブラシをそのまま使っておりますとモーター焼損の原因になることがあります。



## 検査合格証

●この製品は、一貫した品質管理の基に組立てられ、厳密な検査に合格した製品です。

電気試験	機械検査	部品・包装
教本	小林	曾根

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明の点があった場合にはご遠慮なく全国各地のリョービ電動工具販売店、リョービ東和各営業所にお問い合わせ下さい。

※改良のため製品仕様が変わる事があります。

発売元



リョービ東和株式会社

〒464 名古屋市千種区春岡通り7の49  
電話(052)761-5111

製造元



リョービ株式会社

〒726 広島県府中市目崎町762  
電話(0847)41-4111